

街を行く

第46回 有明・夢の島 Ariake Yumenoshima

オリンピックでどの様になるのか

ある程度の予想にもあったとおり、FIFAワールドカップはドイツ優勝で幕を閉じました。毎度のことですが、こうした国際大会の後に日本チームの成績や敗因にはいろんな論調が吹き出し、それを見ていつも考えさせられるのです。毎回聞かされる敗因は「過信」ですが、日本チームはいつも大きな大会ごとに、そんなに思い上がってしまうものなのでしょうか。評論家や解説者をはじめメディアが単に視聴者を煽っているのか。いずれにしても選手達がバッシングされる始末となります。ワールドカップでは世界的な熱狂があるにせよ、どこかに冷静さも持ち合わせないと、失望や怒りのはけ口探しばかりすることになります。ある程度の我慢と継続がわが日本の持ち味なのですから、そこも考慮して頂きたいですね。小生としてはザッケローニ監督や選手の皆さんに「お疲れ様でした」とねぎらってあげたいです。

そして次に待っているのが、国家をあげてのスポーツプロジェクトである2020年の「東京オリンピック」です。皆さん、本当にどの程度この“お祭り”を理解されていますか？ 街づくりの観点から効果は期待できるでしょうか。一例を挙げると、これまで構想ばかりで注目度が低かった東京湾沿岸地帯の有効利用という観点からは、これ以上のイベントは無いでしょうし、近隣地域の開発としても申し分ない大義名分が出来ました。その意味では2020年の単年度のお祭りではなく、グレート東京において最後(?)の大プロジェクトなのでしょう。インフラや環境の問題で敬遠されていた地域が、一躍超人気の「住みたい



オリンピック誘致決定後、とたんに注目され再開発に拍車がかかったようにみえる東京臨海部の有明と、レジャーボートで賑わう夢の島。開発建設に需要による景気づくりではなく街づくりも忘れずに取りたいもの

街」にランクインされています。今後のインフラ環境整備次第ですが、都心部のオフィス街やショッピングゾーンへの利便性でも問題はないでしょう。でも、他の世界の大都市と見分けが付けられる街の“カオ”はどこにあるのでしょうか？

小生にはわかりませんが、いやまだ無いのかもしれませんが。夢の島においては都民の憩いの場としてのカオが定着してきました。広々とした公園や競技場でのんびり過ごす人々やヨットの停留場近くではバーベキューを楽しむ大勢の家族が見受けられます。このような余暇を楽しむスペースがどのくらい残され、また併設されるかで、今後の開発価値が決まってきます。脚光を浴びることは素晴らしいかもしれませんが、それ以前もそれ以後も街は生き続けています。言わば、「これから移り住んでくる人達」が街をつくっていくのです。施設の再利用だけではなく街自体をどの様に伸ばしていくか、どうか骨太の計画でお願いしたいところです。小生の懸念は、何時もその場限りの盛り上がりで直ぐに忘れ



去られていく「国家プロジェクト」があまりに多すぎることです。特にハコモノには悲惨な歴史もありますので、リピーターを呼ぶ街づくりに期待します。

オリンピックは“景気づくり”だけだと勘違いしないでください。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役就任。